

平成 29 年度第 1 回春日井市高蔵寺リ・ニュータウン推進会議議事録

1 開催日時 平成 29 年 7 月 28 日（金） 午前 9 時～午前 11 時 15 分

2 開催場所 春日井市役所南館 4 階 第 2 委員会室

3 出席者

【会 長】	春日井市市政アドバイザー	服部 敦
【委 員】	愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科教授	田川 佳代子
	名城大学理工学部建築学科准教授	生田 京子
	春日井商工会議所副会頭	高柳 通
	春日井市区長町内会長連合会会長	高木 洋一
	東部ほっとステーション運営協議会長	南部 哲男
	公募委員	森田 直子
	公募委員	太田 信幸
	高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社代表取締役社長	
		岡本 広明
	春日井市副市長	加藤 達也

【オブザーバー】	国土交通省中部地方整備局都市調整官	菅原 賢
	独立行政法人都市再生機構中部支社住宅経営部団地マネージャー	
		五十嵐 和晃

【事務局】	まちづくり推進部長	熊木 雄一
	まちづくり推進部ニュータウン創生課長	水野 真一
	主幹	石川 勇三
	課長補佐	竹内 寛之
	創生担当主査	村上 貴幸
	創生担当主査	河井 敦
	創生担当主任	津田 哲宏

【高蔵寺リ・ニュータウン計画に係る先行プロジェクト等支援業務委託に係る受託者】

独立行政法人都市再生機構中部支社	村上 明隆
独立行政法人都市再生機構中部支社	瀬木 健一
独立行政法人都市再生機構中部支社	粕谷 恒太
株式会社URリンケージ中部支社	波多野 睦
株式会社URリンケージ中部支社	山田 晃司

【傍聴者】 6 名

4 議題

- (1) 高蔵寺リ・ニュータウン推進会議について
 - (2) 会議の公開及び議事録の作成方法について
 - (3) 高蔵寺リ・ニュータウン計画の推進状況及び平成 29 年度の予定について
- ※議題に先立ち、会議の設立趣旨の説明及び会長、職務代理者の選出を行った。

5 会議資料

- 資料 1 春日井市附属機関設置条例
- 資料 2 春日井市高蔵寺リ・ニュータウン推進会議規則
- 資料 3 春日井市高蔵寺リ・ニュータウン推進会議委員名簿
- 資料 4 会議の公開及び議事録の作成方法
- 資料 5 高蔵寺リ・ニュータウン計画の推進状況及び平成 29 年度の予定
- 資料 5-1 先行プロジェクト「旧小学校施設（旧藤山台東小学校）を活用した多世代交流拠点の整備」
- 資料 5-2 先行プロジェクト「民間活力を導入した J R 高蔵寺駅周辺の再整備」
- 参考資料 高蔵寺リ・ニュータウン計画及び概要版

6 議事内容

- (1) 会議の設立趣旨について

【事務局水野】 当会議は、平成 28 年 3 月に策定された「高蔵寺リ・ニュータウン計画」に基づくプロジェクト及び施策の実施状況や成果目標の達成状況について、評価・検証するため、今年度設置した市の附属機関である。

- (2) 会長、職務代理者の選出

【各 委 員】 （委員の互選により、服部委員を会長に選出し、会長が田川委員を職務代理者に指名した。）

- (3) 高蔵寺リ・ニュータウン推進会議について

【事務局村上】 （資料 1～3 に基づき説明。）

- (4) 会議の公開及び議事録の作成方法について

【事務局村上】 （資料 4 に基づき説明。）

【服部会長】 会議については公開することとし、議事録等の作成については議事録（要点筆記）とし、委員全員による確認の後、会長及びあらかじめ指定する委員が署名することとする。

（第 1 回会議の議事録署名人は、会長が森田委員を指名した。）

- (5) 高蔵寺リ・ニュータウン計画の推進状況及び平成 29 年度の予定について

【事務局村上】 （資料 5、資料 5-1、資料 5-2 に基づき説明。）

【服部会長】 この計画の議論が始まる4年位前に比べると、いろいろな取組みが進んできた印象である。

高蔵寺リ・ニュータウン計画の取組として、個々の動きだけではなく、それが結びつきダイナミックな動きにつながることに大きな意義がある。それをどう作り上げていくかをこの会議で議論していきたい。

高蔵寺リ・ニュータウン計画には、計画の推進と見直し、多様な主体による主体的な取組と相互の連携の推進とあるため、資料には（仮称）高蔵寺リ・ニュータウン推進協議会についての記載が無いが、今後はこの部分についてもフォローしていきたい。

また、魅力的な活動を実施しても、対外的に知られてこそ意義がある。ホームページやパンフレット等の手段に加え、常に、自然におもしろいことが毎日起きている、というような情報を発信し続けることが重要である。

地域住民の意見の反映と、高蔵寺ニュータウン外の方から見て「まち」が変わっている、というイメージの変化が、計画では重要であると考えます。

【田川委員】 映画「人生フルーツ」は、住民への一つの宣伝効果となった。

（仮称）まなびと交流のセンターを多世代交流の拠点にする計画は、学校が児童生徒から市民のものになるということで、非常に魅力的である。多世代交流拠点は市民の参加の場になるため、あまり運営管理を厳しくせず、市民のセルフマネジメント能力を高め、市民のイニシアチブを育む方法をいかにサポートするかが重要である。アクティブな市民の力量を上げる必要もある。

【生田委員】 計画が1年前に策定されてから、取組が随分進められている印象である。用途地域を変更し、まちに活気ある機能が入ると、楽しいところになる。

新たに整備する拠点施設とあわせて、東部市民センターも魅力的である必要があり、この2つの拠点がニュータウンの顔になる。新藤山台小学校の地域連携室など、既存の小学校との関わりもあると良い。取組内容はどれも先進的だが、地域が感じている実感などのフィードバックが気になる。

【高柳委員】 高齢化の進展や坂道が多いなど、マイナスの情報発信をすると、地域の人たちに誤解を与える。情報発信は、効果的に行う必要がある。

ニュータウンは、空き家はそれほど多くなく、土地の動きが少なく安定している。魅力を高めることによって付加価値が上がり良いまちになっていく。移動スーパーマーケット道風くんは、固定客が付き、楽しみに物を買う方も多い。

坂が多く、高齢化も進行するが、大きな人口流出には至っていない。今なら活性化も可能、ビジネスチャンスが生まれるので、魅力あるまちづくりをしたい。

【服部会長】 ニュータウン内には住宅に関する潜在的な需要が存在しているが、そこを後押しし、つなげていく仕組みができていない。リバースモーゲージ等の仕組みを周知し、どのように支援するかは視点が必要である。

【高木委員】 ニュータウン再生に関しては、期待に対して進捗が遅いと感じる。しかし、市全体を見渡すとニュータウンはいろいろな意味で恵まれている。

まちづくり会社の設立は、大賛成である。この会社で一番期待しているのは、空き家の活用。信用できる会社が責任をもって管理をすれば住宅流通が促進される。

「東京郊外の生存競争が始まった」という本に紹介されている、コミュニティコンビニエンスプレイスという活動に注目している。空き家を活用し、飲食や簡単な運動など、人が集まれる場作りが必要である。起業家の育成にも期待している。

学校と地域の連携という点、石尾台では学校応援団を作り、父兄の方にボランティア活動を行ってもらっている。

広報はイメージが大切。明るいキャッチフレーズが作れるとよい。

【南部委員】 情報発信は大切、(仮称)まなびと交流のセンターにおいても、多くの人に知ってもらうことが重要である。

東部ほっとステーションは、10 団体がそれぞれの特徴を活かして活動しているが、病気等で来られなくなった方もみえる。何かをやろうとすると来られる方のことを考えるが、来られない方のことも同時に考える必要がある。同様に、状況が変化していくことを見据えながら計画を修正していかなければいけない。

また、自宅でお茶を飲むなど近所同士で助け合っていくような活動にも重点を置く必要がある。

【森田委員】 子育て世代の目線から発言したい。私の周りの夫婦は、どちらかが過去にニュータウンに住んでいたという方が大半。ニュータウンには、戻ってくる魅力があると実感している。

また、ニュータウンは、イベントを企画すれば人が集まる。インパクトのあるイベントを企画するのが良策と考える。情報の取得について、子育て世代や若い方は、フェイスブック、SNS等で検索してまち起こし動画を見ている。

キャッチフレーズについて、ニュータウンは高齢者が多いからこそ、子育てがしやすいというイメージを植え付けることが良いと思う。

高蔵寺駅には、親子カフェなどが増えてほしい。また高蔵寺駅北口は、バス停とコンビニの距離が遠く、コンビニに寄るためにバスに乗れないこともあり、不便である。

旧西藤山台小学校の跡地利用も関心が高い。

【太田委員】 課題はURの共同住宅である。リニューアルは難しい現状も見受けられるが、地域のポテンシャルを上げなくてはならない。

「リ・ニュータウン」という言葉には、悪いところを直すイメージがある。前向きに、パーソナルモビリティが使えるまちなど、プラスイメージのアピールが良い。

サンマルシェはニュータウンだけのものになっており、市内全域、ニュータウン外から人が来ないとアピールできない。そのためには、センターの魅力を高める必要がある。

懸念としては、センターと新たな施設とのアクセスであり、円滑なアクセスが実現できれば、センターに人が流入してくる。

【服部会長】 本日オブザーバーとして来て頂いているURさんに動いていただける環境づくりは、重要な視点である。

【岡本委員】 高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社では、概ね5年ごとに商圈調査を実施している。5年前の調査と今年3月に行った調査の違いは、月1、2回の買い物客のエリアの拡大である。理由として、ニュータウンの人口は減っているが、名古屋市守山区の志段味地区、春日井市の神領地区は開発によって人口が増加しており、その辺りから来店されるようだ。

商店街周辺の歩道や道路、植栽や街灯などのインフラ環境が古くなってきているので、魅力向上が必要である。

交通ネットワークについては、いろいろな交通手段によって代替機能を利かせて切れ目のないネットワークをつくるのが大切である。

情報発信、ブランドイメージについては、サンマルシェでは、地域連携イベントに力を入れ、広域からも来店していただくようにしたい。

高蔵寺駅再編については、乗換え機能が便利で短時間で移動できることを最優先に考え、整備計画を立てることが必要と考える。

【加藤委員】 市の取組として、今年4月からICT推進室を設置し、SNSやスマホ等を活用して、ニュータウンの魅力発信を検討している。

(仮称)まなびと交流のセンターは、コミュニティカフェ等で地域の方々が活動できる拠点となるように整備していく。藤山台小学校との連携なども検討したい。また、新たに整備する児童館は、東部子育てセンターとターゲットを住み分けている。

免許を返納された高齢者の交通手段の充実など、高齢だから転居するのではなく、ニュータウンの中で最後まで高齢者の方々が快適に過ごせるようにしていきたい。

新しい施設には、地元の人が親しみやすい名称が付けられるとよい。他市では、住民自らシティプロモーション動画の撮影に取り組んでいる事例も聞く。ニュータウン出身者がまた戻って来るとの発言については、今後分析を検討したい。

来年はニュータウン入居50周年である。ニュータウン創生課と新設されるまちづくり会社とが協力し、イベントによる活性化を図っていきたい。

【オブザーバー菅原】 ニュータウン再生は全国的な施策である。高蔵寺ニュータウンは、まち交大賞の受賞や先駆的空き家モデル事業の選定など、注目度が高い。人口の目標値の実現は厳しい印象だが、PDCAサイクルをまわして進めることが重要と考える。

リニア開通に伴い、東京・名古屋・大阪の距離が近くなり、スーパーメガリージョンが形成される。働き方やライフスタイルも影響を受けることが考えられるので、そういった視点を持つのも面白い。

【オガバー五十嵐】 高森台のような団地再生により生まれた余剰地については、一義的には高齢者福祉施設等の誘致となるが、若者世帯を呼び込み、集約だけではなく、まちづくりに資するような土地活用を目指した施策として、民間事業者への土地売却も考えていく。また、地域医療福祉拠点化の取組も進めていく。

URも出来る限り協力して、取り組んでいきたい。

(6) その他

【事務局水野】 (次回会議は2月中旬または下旬頃を予定し、日程調整は後日。)

上記のとおり、平成29年度第1回春日井市高蔵寺リ・ニュータウン推進会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名する。

平成29年9月4日

会 長 服 部 敦

署名人 森 田 直 子